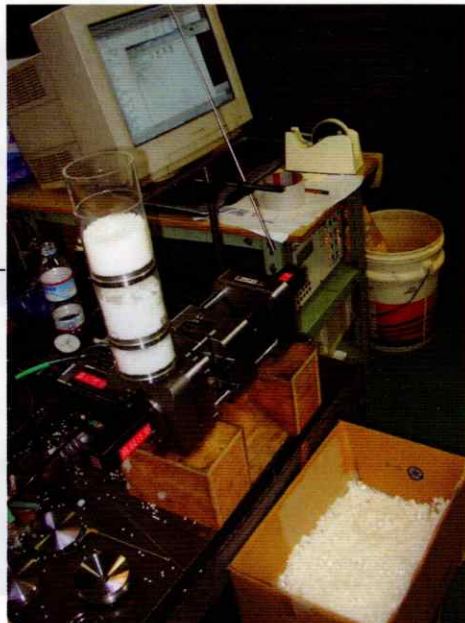


プラスチック射出成形の現場を知る人なら、まずこの「卓上射出成形機」のあまりの小ささに感嘆するはず! 次いで「廃材ゼロ」という機能に愕然とするはずである。それほどこれまでの常識を覆す画期的な機械なのだ



「廃材ゼロ」の超小型 卓上射出成形機を発明

株式会社新興セルビック(東京都品川区)

「平面化」に成功。さらにこれまで大量の無駄を出していた樹脂材料を必要な分だけ使えるようにする「ホットランナー」を開発。遂にコンパクトでしかも廃材を出さない画期的な超小型卓上射出成形機が誕生したのである。

「これが受注(受信)型から自ら発信していく企業に転換するきっかけになりました」(竹内社長)

重くて大きいことが常識だったこれまでの金型成形機を、もうこれ以上は無理と思われるサイズにまで小さくしてしまつた。大きさは縦横12cm、幅28cm。もはや立派な卓上サイズである。これは、将来の金型づくりやプラスチック射出成形の現場を一変させてしまうほどの革命的な技術と言われている。

ただし、ここまで来るには17年の歳月と数々の基本的な要素開発の積み重ねがあった。もともと金型屋が本業だった社長の竹内宏氏が、毎回大型で重くなってしまう金型製作の手間を省こうと、製品ごとに必要な型と金型枠を分離した「ユニット金型」を開発。お客からたいそう喜ばれた。

企業情報

設立は1987年。竹内宏社長が父親と創業した新興金型製作所が前身。'85年の円高不況で町の金型製作会社が廃業に追い込まれていく中で、次々と独創的な技術を生み出す。以来本社には起業家、大学の研究者、他企業の技術者といったさまざまな「異能の士」が参集するようになり「アイデア工房」という開発者集団が生まれている。'06年8月現在、開発した技術・アイデアは61件。
<http://www.sellbic.com/>

国内トップシェア!

あのH-IIロケットをも飛ばす「へら絞り」
日本スピン株式会社(神奈川県横浜市)

国産H-IIロケットの先端フェアリング部の加工はへら絞り(スピニング)と呼ばれる高度な熟練技術が求められる。この他、航空機部品から半導体、医療機器、装飾工芸品に至る金属素材加工で高い信頼性を誇るニッチトップ企業。とくに半導体・液晶製造装置のスピンコーターカップではシェア日本一。「どこにもできない難加工は同社に相談」という金属加工の駆け込み寺的な存在である。

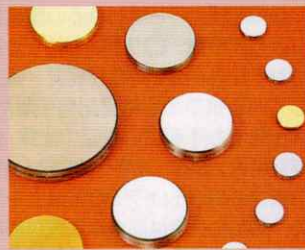


<http://www.nihon-supin-jp.com/>

世界オンリーワン!

精緻なもののづくりを支える硬さの世界基準
株式会社山本科学工具研究社(千葉県船橋市)

ロケットから航空機、自動車、精密機械、さらには家庭用品とさまざまな分野で使われる金属。その「硬さ」の世界基準が社員21名の同社でつくられている。長さや重さとともにものづくりに欠かせない硬さには意外にも絶対的なモノサシがないのだそう。この「硬さの基準片」(約140種類)をつくっているのである(国内シェアほぼ100%)。精緻なもののづくりの根幹を支える凄い技術だ。



<http://www.ystl.jp/>